

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

若者よ、公民館に行こう。

しばらくの間、学校教育に関係した事項が続いていたので、今回は広く市民全体に関わる社会教育を取り上げます。

1. 中央教育審議会「社会教育の在り方に関する特別部会」

(1) 「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」(諮問)

令和6年6月、文部科学大臣から中央教育審議会に対して標記が諮問されました。主な審議事項として、以下が挙げられました。

- ① 社会教育人材を中核とした社会教育の推進方策
- ② 社会教育活動の推進方策
- ③ 国・地方公共団体における社会教育の推進体制等の在り方

<地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について(諮問)>

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext_00001.html

(2) 「社会教育の在り方に関する特別部会」の設置

中央教育審議会では、諮問を受けて、生涯学習分科会の下に、新たに「社会教育の在り方に関する特別部会」を令和6年8月に設置しました。当該特別部会の委員には、中央教育審議会では珍しく、大学生も参加することになりました。

<社会教育の在り方に関する特別部会 委員名簿>

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/015/meibo/mext_00003.html

(3) 「審議事項1に関する意見の整理」

「社会教育の在り方に関する特別部会」では、本年3月、「審議事項1に関する意見の整理」をまとめました。当該「意見の整理」では、「社会教育の推進に向けた今後の方向性」の中で、「若年層を中心に社会教育への関心や参画を広げる工夫」も取り上げられています。

<社会教育の在り方に関する特別部会 審議事項1に関する意見の整理>

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/015/toushin/mext_00005.html

2. 国立教育政策研究所「これからの時代の社会の基盤としての社会教育を考える～今、なぜ社会教育なのか～」

国立教育政策研究所では、社会教育実践研究センターの設立60周年を記念して、12月13日に、標記を題材としたシンポジウムが開催されました。パネルディスカッションの中で、若者の社会教育への参画も話題になり、「還ってきたいと思う鮭を育てるのか？鮭が還りたい川をつくるのか？」「鮭が還りたいと思う川をつくるのは、大人の責任」といったやり取りがありました。

<国立教育政策研究所「これからの時代の社会の基盤としての社会教育を考える～今、なぜ社会教育なのか～」>

https://www.nier.go.jp/06_jigyuu/symposium/sympo_r07_01/index.html

3. 令和8年度教育振興重点施策

市川市教育委員会として、12月5日に策定した標記重点施策には、「人生を豊かにする生涯にわたる学びの基盤づくり」の項目の中に、社会教育活動への若者の参画に関し、以下の文言が記載されています。

<多世代が参画した社会教育活動の推進>

地域や学校と連携した取り組みにより、社会教育活動への子ども・若者の参画を促し、社会教育人材の発掘・確保に努めるとともに、講習の開催などを通じて、社会教育人材の育成を行います。

<令和8年度教育振興重点施策> (5頁参照)

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/common/edu21/file/0000500975.pdf>

4. 学習スペース@公民館

どちらかと言うと、お年寄りの方のサークル活動拠点のようなイメージがある公民館ですが、12月から、菅野公民館と幸公民館で、学習スペースの提供を始めました。

また、八幡市民交流館(ニコット)では、中高生つどいの広場(愛称:chocotto)が7月にオープンしました。

いずれも、無料ですので、お気軽にご利用ください。若者が公民館やニコットに訪れることで、新たな交流が生まれることを期待します。

<公民館における学習スペースのご案内(菅野公民館および幸公民館)>

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/edu12/0000500540.html>

<中高生つどいの広場(愛称:chocotto)について>

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/chi01/0000491432.html>